
本当に、死にたい？

東雲咲夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本当に、死にたい？

【Nコード】

N1154E

【作者名】

東雲咲夜

【あらすじ】

僕のところ、親友がいきなり来たんだ。しかも、彼女は死にたがってる。もう一度よく考えてごらん。本当に、死にたいのかな？

やあ、久しぶりだね。

どうしたんだい？ こんな夜遅くにさ。

外は大雨が降っているのに。

傘も差さないで来るなんて。

まあ、とりあえず立ち話もなんだから中に入りなよ。

本当に久しぶりだなあ。もう一ヶ月くらい会ってなかったかな。

最近どうしていたんだい？ まったく連絡なかったじゃないか。

あ、コーヒー飲むかい？ 暖まるよ。

ほら、タオル貸すから、そのソファで濡れた髪を拭きなよ。

そのままじゃ風邪を引いても知らないよ。

はい、コーヒー。

ほら、もっとちゃんと拭かないと駄目だよ。まだ目元が濡れているじゃないか。

あれ？ 君、もしかして泣いているのかい。

どうしたんだい、頑固な君が泣くなんて。

……え？ 死にたいって？

だから、どうして死にたいんだい？ 泣いていたら分からないじゃないか。

彼氏に振られた？ それくらいのことでは君は死にたくなってしま
うのかい。

自殺って——なに、君もしかして相談しに僕のところへ来たんじゃないだろうね。

……泣きながら顔かないでもらいたいなあ……

ちよつとは落ち着いたかい？ 君、三十分くらい泣いていたね。それで、本当に君は自殺したいの？

たった一人の男に振られたくらいで？

世界中には何億何千人もの男が存在するのに？

ちよつと、痛いからぶたないでくれる……悪かった、僕が悪かったから。

で、君は自殺の何を相談しに来たんだい？ というか何故僕の所に来たんだ。

詳しそудだからって……君は僕をどんな人だと思っているんだい。心外だな。

どんな方法で自殺すればいいかって？

そうだねえ。例えば……飛び降りとか、一酸化炭素中毒とか、睡眠薬とか……

どうして止めないのか？

本人が死にたいといっているのに、他人の僕に何ができるのさ。

薄情者。ひどいなあ。だったら僕のところに来なければよかったじゃないか。

まったく。

他には、ホームに飛び込んでみるとか、車道に飛び出してみるとか。

ああ、首吊りって言う方法もあったかな。

古い方法だと、切腹とか？ 笑いものにしかならなそうだけど。

……何、綺麗に死にたいの？

はあ。あのね、君何か勘違いしていないかい？

死っているのはね、綺麗なモノなんかじゃないんだよ。

よく、世界が汚れている、とか。

醜いとかいうよね。

だから、綺麗に死ぬとかって。

死には綺麗もなにもないんだよ。

ただ無があるばかりさ。

一筋の光もない、誰もいない、無音の世界。

そんなところに誰が好きで落ちていくものか。

綺麗でもなんでもない、ただの暗闇なんだよ。

今頃、綺麗だと信じて自殺した奴はきつと思っているよ。

自殺なんかしなければよかったてね。

別に自殺をやめろといっているわけじゃないよ。

ただ、君が死を綺麗なモノと思っているようだから――

せめて自殺をする前に、知っておいてほしかったただだよ。

君がいう綺麗はどの綺麗なのかわからないけれどね。

体の形を保ったままの……綺麗な死に方なのか。

死、そのものを綺麗と錯覚しているのか。

どちらにせよ、僕はどうでもいいけど。

綺麗な死に方の方？ 人に迷惑をかけたくない？

うーん。難しい要求をしてくるね、君。

綺麗って時点で無理だよな。迷惑かけたくないっていうのも。

どんな方法でも必ず血は流れる……あ、薬系は出ないか。

でも、腫れ上がったたり、変色したりするかもしれないよ。

例えば飛び降り自殺。

鳥になるんだ、とか。

自由になるんだ、とか。

楽になれるかと思って飛ぶよね、勢いよく。

何が鳥になるんだろううね。

実際は、潰れたヒキガエルじゃないか。

道路にぐしゃつと張り付いて、醜いったらありやしない。
運が悪いと、人様の車の上に着地したりもする。

飛んだほうも、車の中の人もお陀仏だよ。

それに、飛んですぐ意識がなくなるんじゃないんだよ。

ものすごい速度で落ちていく風景を眺めているんだ。

風で眼は開かないかもしれないけど。

運が悪いと、地面に激突した後も意識がある。

痛いよねえ。頭なんか潰れてるのにまだ生きてるなんて。

痛覚が麻痺してるならいいけど、無事なら悲惨だよ。

痛い痛い、って思ってるのに、声は出ないし、眼は見えない。

助かりやしないのに、病院へ運びこまれる。

何時間もちがき苦しんだ後、ようやく死ぬんだ。

それとも、これで死ぬ……って思ってるのかな？

もちろん、人に迷惑かけまくりだからね。

飛び込みも同じだよ。

駅のホームに飛び込めば、確かに即死する確立は高いだろうけど

……

その後が問題だね。

駅員さんや、警察は大変だ。

バラバラの死体を集めなきゃならないんだから。

そのせいで、電車の運行はストップするよね、その路線は。

急いでいる人、仕事で忙しい人、学生。

みんな君のせいで遅刻してしまうんだよ。

どこの誰かも知らない飛び込み自殺した人のせいで……ね。

ほら、迷惑かかってるでしょう？

え？ 首吊りはどうかって？

あれはあまりオススメしないな。

迷惑は、死ぬ時点がかかってるんだから、このさい省くよ。

あれはね、死ぬまで時間がかかりすぎると思うな。

首が縄やら紐やらで絞められて、血液や酸素が届かなくても、すぐには死なない。

呼吸困難な状況がしばらく続く。

ましてや、首吊りは絞殺と違って、自分の重さで絞めるだろう？
ちよつとやそつとの時間じゃ死なないと思うよ。

首はギリギリ絞められ、視界はかすむ。

血管が切れて、血の味がするかもしれない。

汗もたくさんかくだろうね。

青黒く腫れた舌が、だらりと口から垂れ下がるんだ。

まったく綺麗じゃないだろう？

睡眠薬？ う……ん。あれはどうなんだろう。

意識がすうつと薄れていくのかな。

眠るように？

それとも、何か苦しいのかな。

僕は自殺なんてしたことないから、よくわからないや。

あ、中毒系はやめたほうがいいよ？

煙とか、蒸発したのとか使うんだから。

万が一、君の部屋のドアが開いたままだったら？

ゆっくり、少しずつそれは外に漏れるだろうね。

実家とかだったら、家族が死ぬよ。

マンションとかでも、巻き添えを食らう人があるよ。

君が迷惑をかけたいと思うのなら、やめておいたほうがいいよ。

ねえ、本当に君は死にたいのかい？

一時の感情じゃないのかい？

生きたいといいながら死ぬ人だっているのに。

それなのに、何故君は死を望むのかな。

人はいずれ、死んでいくよ。

君にはまだ時間はたくさんある。

どうして死に急ぐのかわからないな。……やっぱり。

僕の祖母なんだけどね、昔はとっても元気だったんだよ。運動が好きで、とにかく動くことが好きな、活発な人だった。その祖母がね、病気になったんだ。

それも、もう治らない……末期。

見つけたときには、もう手遅れの状態。

開こうが、投薬しようがどうにもならない状態。

それからの祖母はね、変わったよ？

最初の数ヶ月はね、まだ元気なんだ。

自分で動いたりもできる。

でもね、その後が大変なんだ。

体の痛みは薬で抑えられるけれど、動かなくなるのはどうしようもないんだ。

リハビリをしても、筋肉は削げ落ち、硬くなっていく。

ふらふら歩いて、転んで、骨が折れる。

大きな痣ができる。

動かないし、しゃべらない、まるで人形みたいに。

食べたり飲んだりもしなくなるんだ。

無理にすると、喉につまらせてしまう。

それだから、トイレにも行かないんだよ。

生理現象すら起きなくなるんだよ。

そのうちには、舌も麻痺してきて、痛いつていえなくなる。

僕は祖母が何を考えているのか、まったくわからなくなった。

元気だった祖母の面影は薄れていつて――

よんだ瞳の、しわくちやの祖母が記憶に刻まれていくんだ。

もう昔の祖母は思い出せないんだ。思い出せるのは、しぼんだ祖母だけ。

今では、もうそれすら思い出せないよ。

確かに、祖母はそこにいたはずなのにね。

不思議と思い出せないんだよ……悲しみが残るだけで。

祖母は、嘆きながら、悲しみながら死んでいったよ。
表情で、わかるよ。

生きたいと願いながらも、死に飲み込まれたんだ。
本当に、君は死にたいの？ もう一度だけ聞くよ。

本当に——君は自殺して、死にたいの？

君の——その瞳。それは、何かを決意したときの瞳だね。
たぶん、僕が何を言っても聞かないんだろうね。

君は、生きることを望みながらも、死に食われた人がいると知っ
ても。

死は綺麗でもなんでもない、ただの虚無だと知っても。
他人に多大な迷惑をかけると知っても。

君は、死を自分で選択するんだね。

……他にも、道は、選択肢はあるのに、何故死に飛び込んでいく
のか。

何度見ても……やっぱり分からないな。僕には一生わからないよ。

……それなら、君に会うのもたぶん最後なのかな。

君がこの後、どこかで自殺するというのなら。

じゃあ、僕が君に最後のプレゼントをしてあげるよ。

——君を殺してあげる——

え？ 迷惑になるからいいって？ 大丈夫だよ。

僕は慣れているから。

迷惑がかからなければ、平気でしょう？

死にたがりの君に、僕が死を贈ってあげる。

ちよつと、何で後ずさるんだい。

何……遠慮する？

あははっ。笑わせないでよ、もう。

君は、今まで散々自殺したいといってたじゃないか。死にたいんでしょう？ さっきもそう答えたよね。

いい間違えた、なんて、いまさら却下だからね？

僕は、迷惑がかかるとは感じていない。

部屋を掃除すればいいだけのことさ。

死に方は綺麗に殺せないかもしれないけどね。

君は自殺したい、僕は殺したい。

ほら、君と僕の利害が一致しているよ。

これなら、君も安心して死ねるでしょう？

ああ……君の勘は当たっていたことになるね。

ふふっ。すごいなあ、女の勘って。

君はどんな方法で殺してあげようか。

ああ——大丈夫、苦しまないよう、すぐに楽にしてあげるよ。君は特別だから。

なんたって、僕の親友だもの。

さあ、そろそろ時間だよ？

忘れてはいけないよ、君は自分で死を選んだんだ。

僕が強制したわけじゃない。

僕はただ、手伝ってあげるだけさ。

この選択は……重いよ？

それじゃあ、僕から君への——最後のプレゼント。

受け取ってもらえるかな？

（後書き）

お読みくださり、ありがとうございました。

本来この話は、小部屋に収納予定だったのですが……

予想以上に長くなってしまったので、単品であげました。小部屋には別のものをあげました。

自殺は、よくないと思ってるんですよ……

暗い内容でしたが、最後までお読みくださり——
どうもありがとうございました。

貴方がこの先、死を選ぶことはありませんよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1154e/>

本当に、死にたい？

2010年10月8日15時30分発行